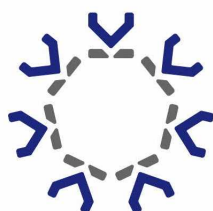


AIRPORT



SDGs Report 2024

SDGs取組み報告書



熊本国際空港

Kyushu Kumamoto
International Airport Co., Ltd.



Message

持続可能な空港運営を通じて、幸福な社会の実現に貢献します。

熊本国際空港株式会社（KKIAC）は2020年4月から、「阿蘇くまもと空港」の航空管制を除く運営業務を行っております。「訪れる人も、働く人も、笑顔になれる、世界でいちばん居心地のいい空港になる」という当社のビジョンの実現に向け、社員一同日々の業務に従事しています。

「阿蘇くまもと空港」は、2023年3月に新旅客ターミナルビルを開業しました。同施設は、熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、災害時でも盤石な航空インフラを提供することを期待されています。

また、熊本県の「[新大空港構想\(リンク\)](#)」において、空港周辺地域は半導体関連産業が集積する「新生シリコンアイランド九州」の核となり、「地方創生の先進地域」を実現することが目標とされています。

当社はSDGsの取組みを2021年からスタートし、当社のビジョンや、社会からの期待を踏まえ、注力すべき重要課題を選定しました。本レポートでは、各重要課題への取組みをご報告します。

これからも、SDGsの取組みを通じて持続可能な空港運営、ひいては幸福な社会実現に貢献して参ります。

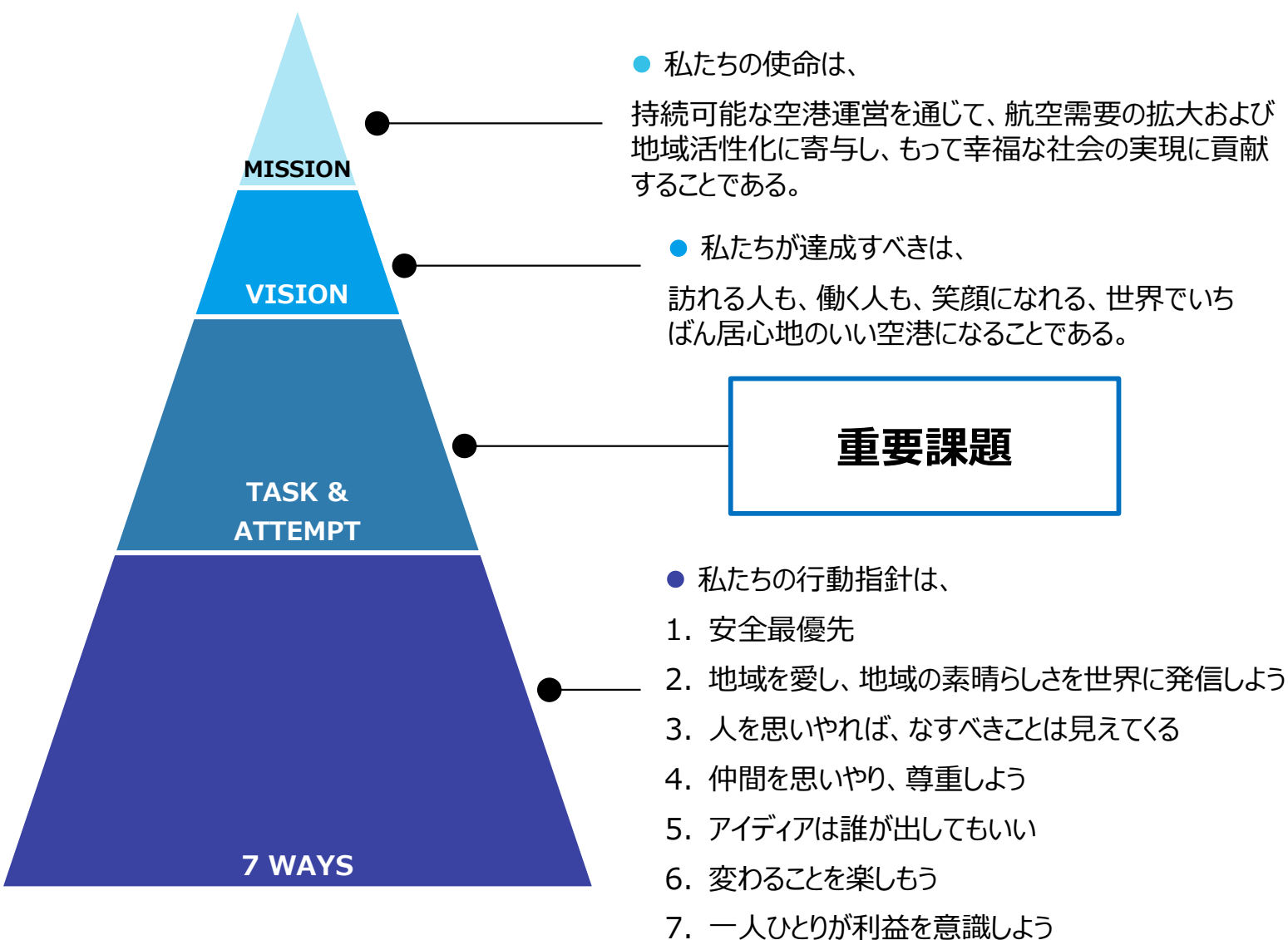
<目次>

KKIAC VISIONと重要課題の関係	P3
これまでのSDGsのあゆみ	P4
サステナビリティ推進体制	P5
重要課題 1：安全・安心な空港運営の実現	P6
重要課題 2：地域社会の創造的復興への貢献	P8
重要課題 3：環境への配慮	P10
重要課題 4：すべての働く人が活躍・成長できる環境の整備	P12



KKIAC VISIONと重要課題の関係

- 当社がESGに配慮した経営に取り組む上で、解決すべき重要課題を選定いたしました。
- 重要課題の解決によって当社の使命（ミッション）を果たすことは、将来ビジョンの実現に寄与するものです。
- 当社従業員の基盤となる「7WAYS」を行動指針とし、重要課題の具体的解決に取り組めます。



当社の使命（ミッション）、将来ビジョンの実現に関わる重要課題

マスタープランの5つの基本方針([参照リンク](#))と連動した取組みを進めてまいります

安全・安心な
空港運営の
実現

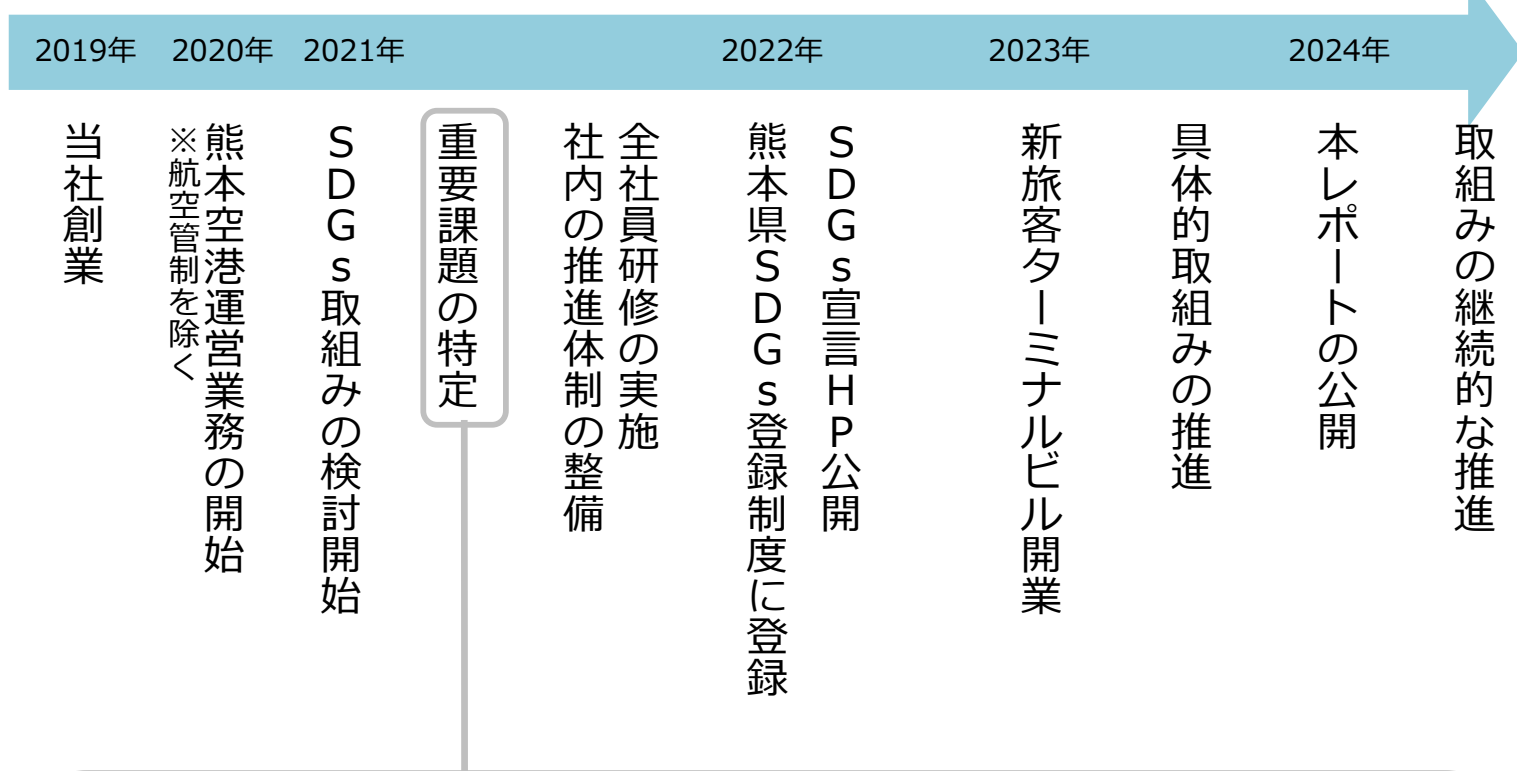
地域社会の
創造的復興
への貢献

環境への配慮

すべての働く人
が活躍・成長
できる環境の
整備

これまでのSDGsのあゆみ

- 2021年度からSDGs取組みの検討を開始し、熊本県SDGs登録制度への申請、SDGs宣言の公開等、これまで段階的に取組みを進めてまいりました。
- 2023年度は、各重要課題の担当部門を改めて設定し、推進中の取組みについて整理いたしました。
- 今後は、重要課題の解決にむけた目標の設定と、進捗管理の仕組みの整備を進めて参ります。



重要課題の特定プロセス

STEP1 課題の棚卸

SDGsの169のターゲット、熊本県「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」、熊本県SDGs登録制度の要件等を踏まえ、当社を取り巻く課題を整理

STEP2 取組みの現状、SDGsに対する考えの整理

経営陣や各部門に、当社を取り巻く課題に対する認識と、対策の現状を確認

STEP3 重要課題の候補を選定

以下の2つの側面から評価し、4つの重要課題と関連する候補を選定

- ・ステークホルダーにとっての重要性：当空港を取り巻く課題、ステークホルダーからの期待 等
- ・当社にとっての重要性：企業文化・価値観、各種中長期計画、課題に対する現状認識 等

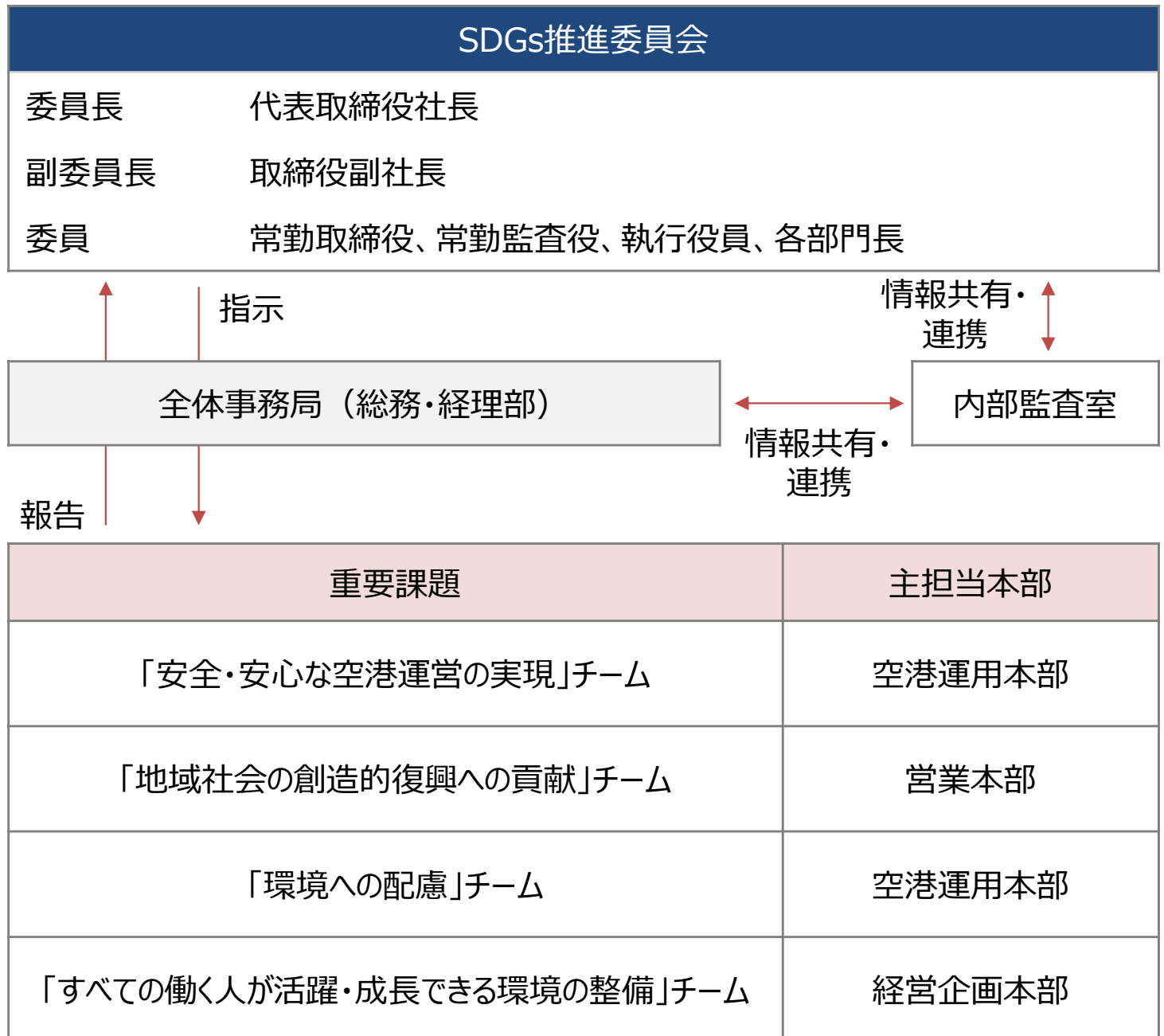
STEP4 重要課題の取組み方針、取組みの効果の整理

各重要課題にどのように取組むべきかを整理

取組みによって見込まれる効果について、「SDGsへの貢献」「ステークホルダー」「自社」の観点から整理

サステナビリティ推進体制

- 重要課題ごとに担当チームを組成し、SDGsの取組みを進めています。
- 各重要課題の進捗状況は、SDGs推進委員会へ定期的に報告され、経営層による取組み状況の確認を行っています。





【取組方針】一人ひとりが安全・安心の担い手として、レジリエントな空港サービスを提供します

安全・安心な空港運営は、当社のあらゆる活動の基盤であり、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の期待が最も大きい取組みの一つであると認識しています。続発・甚大化する自然災害や感染症の流行、サイバーリスクの顕在化等、空港運営を取り巻くリスクは日々変化し、多様化しています。このような環境においても安全・安心なサービスを提供すべく、日々の点検・検査・警備を通じた事故・トラブルの予防や、BCPの整備・訓練実施等により空港のレジリエンス向上に取り組んでいます。

安全・安心なサービスの提供

施策1 日常点検の着実な実施

「熊本空港 安全方針」に基づく安全文化の醸成にむけて、全従業員が「自分事」として日々の点検業務に従事しています。

また、点検業務の関連資格の取得費用を全額負担するなど、安全な空港運営に不可欠なスキルの獲得を支援しています。

今後はより確実・効率的な点検業務の実現にむけて、新技術を活用した点検方法の導入等を検討中です。

施策2 盤石な保安警備・検査体制

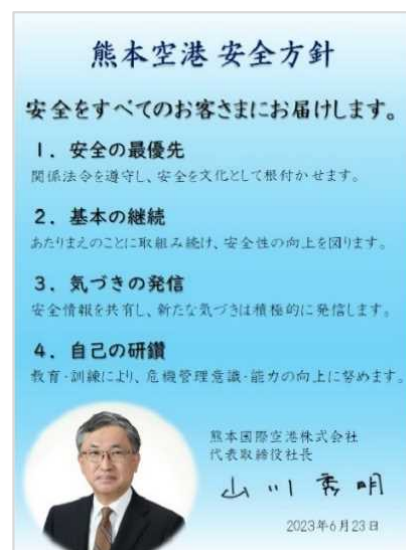
空港警備を担当する「熊本空港警備株式会社」の従業員の約8割が警備資格を保有しており、業界平均を上回る資格保有率となっています。

また、お客様にとってストレスの少ない検査を目指して、説明にイラストを多用するなど、見やすい、分かりやすい説明を心がけています。

施策3 DXによる保安警備の高度化

空港施設内でAIロボットを導入し、警備・清掃・保安・案内業務等へ活用しています。また2024年4月現在、AI 監視システムにより検知すべき状況を自動的に検知し、不適切な行動や、不審物の迅速な発見等に繋げる実証実験を実施しています。

ロボットは当空港の就航地域の言語（英・日・台・中・韓）に対応するほか、空港内の清掃作業や、搭載されているサイネージを使ったフライト情報の通知なども可能です。



有事への備え

施策1 事故・トラブル・災害発生時の迅速な対応

航空機事故発生時の対応マニュアルの整備や、定期的な訓練の実施により、事故・トラブルに備えています。また、西日本航空機サービス株式会社との事故対応に関する協定や、空港内の滞留客の運搬（九州産交バス株式会社）、待機場所の提供（株式会社再春館製薬所）に関する協定を締結しています。

その他、エアライン各社やグランドハンドリング会社、官公庁等で構成される「空港緊急連絡協議会」や、自治体等の関係各所と平時から定期的にコミュニケーションの機会を設け、有事対応に関する情報の共有等、関係構築を進めております。

施策2 災害発生時のレジリエンス構築

新旅客ターミナルビルは、国の要求水準（重要度係数 1.25）を上回る「重要度係数1.5」超の耐震性能を有する設計となっています。また、建物被災度判定システムによって被災状況を約10分で判定可能であり、迅速な建物の利用可否判断が可能です。

ライフラインについては、複数の変電所からの電力供給によって電源喪失対策を講じるとともに、万が一の電源喪失時にも非常用発電機から72時間の電力供給が可能な体制としています。また、空港構内の地下水を汲み上げてトイレ洗浄水等として利用可能であるほか、新旅客ターミナルビル西側にマンホールトイレ用の接続箇所を設定しており、被災時の衛生状況にも配慮しています。

施策3 感染症への対応

旅客動態管理システム（PFM）の導入により、空港施設内の混雑状況が把握可能になりました。空港利用者を混雑していないエリアへ誘導するなど、密状態の解消にむけた取組みに活用しています。

事業継続の観点からは、従業員の感染症予防策として、インフルエンザの予防接種費用を会社で全額負担しております。



取組みにより期待する効果

ステークホルダーの皆様にとって

- ・有事における航空インフラの維持・活用可能性の拡大
- ・安全・安心な空港利用

当社にとって

- ・事業停止リスクの低減
- ・安定的な航空インフラの提供による顧客満足度の向上

関連するSDGs



阿蘇くまもと空港／熊本空港【公式】インスタグラムの投稿から①



空港内の安全に関する顕著な働きを表彰

空港の安全は、航空会社やグランドハンドリング事業者、空港運営会社といった関係者の連携により成り立っています。
熊本国際空港では、顕著な働きをされた方に感謝状を授与し、従業員の積極的な安全活動を奨励しています。



出典: https://www.instagram.com/kumamoto_airport/

車両オイル漏れに気づき、除去作業を手伝うなど、安全早期回復に貢献したスタッフの皆さん。
2024年5月15日に事務所で開催した授与式の様子

NEXT PAGE

地域社会への貢献：空港4F 展示スペース

空港内には熊本県内の地域の魅力を発信する展示スペースを設けています。



お土産コーナーも
地産品で充実!

4 F 床面に施された滑走路の意匠





【取組方針】「ひらかれた空港」として県内外をつなぎ、熊本の創造的復興に貢献します

熊本県は、豊富な自然・観光資源に恵まれ、経済においても半導体産業の集積地としての発展を遂げつつある一方で、人口減少や産業の衰退、熊本地震・令和2年7月豪雨からの復興等の課題を抱えています。当社は、航空インフラ機能を通じて、地域の魅力を世界に発信するとともに、地域産業の育成・活性化に寄与し、地域社会の創造的復興に貢献することが使命であると考えています。

県内外からのアクセスの改善・ネットワークの拡大

施策1 東アジア路線の戦略的誘致

当社は、「世界と地域に開かれた九州セントラルゲートウェイ 地方空港No.1の国際線ネットワーク」をビジョンに掲げ、路線の誘致に取り組んでいます。2023年9月より新規路線となる台湾線が就航し、現在では、国際線が週25便運航しており、地方空港として2番目に多い就航便数となっています（2024年3月時点）。

施策2 二次交通の拡大・拡充

空港からの二次交通を拡大・拡充することは、人々の往来、ひいては地域経済の活性化に重要だと考えています。2023年度は熊本市内からの空港リムジンバス（空港特快バス）や阿蘇山上線を開通させました。日々約190便が運航し、多くのお客様にご利用いただいています。



二次交通の
拡大・拡充

世界と熊本の交流活性化

施策1 多様な人々が快適に過ごせる場づくり

新旅客ターミナルビルの建設にあたっては、多様な人々が快適に過ごせるよう、ユニバーサルデザイン設計アドバイザーの監修のもとユニバーサルデザインを追求しました。スーツケースやベビーカー等と一緒に入室できる十分な広さのある男女別トイレやバリアフリートイレ、授乳室、補助犬トイレ、礼拝室などを設置しています。



礼拝室



バリアフリートイレ



補助犬トイレ

施策2 空港内敷地開放（地域の祭り・イベント・空港見学等）

空港施設内で地域のイベント、空港内の見学会等を定期的に行っています。今後もこれらのイベント等を通じて、地域の皆様やご利用いただくお客様に愛される空港を目指して参ります。

<2023年度実施イベントの一例>

- ・くまモンイベント（毎週土曜日）
- ・小学校等の空港見学会（毎週）
- ・熊本空港マラソン（5月）
- ・空の日フェスタ（10月）
- ・ランウェイイルミネーション（12月）
- ・留学生向けイベント（2月）



熊本空港マラソン



見学会

産業基盤の育成

施策1 空港テナント・敷地内での県産品提供・PR支援

当空港では、出発客を対象に保安検査通過後の搭乗ゲート内に、県産品の取扱を充実させたショップやレストランを配置しており、搭乗直前までゆっくりと過ごすことが出来る環境を整備しています。今後は、すべてのお客様にもお楽しみいただけるように搭乗ゲート外の商業充実化を進めていきます。



施策2 地域企業のイノベーション創出の支援

2022年8月に熊本県、東海大学と「空港周辺エリアを活用した地域活性化に関する連携協定」を締結いたしました。本連携協定は、熊本県のUXプロジェクトの一環です。今後は、3者による共同開催イベントの実施や、空港周辺地域におけるスマートシティ創造、脱炭素化の推進などに取組むほか、県内外から人が集まる空港施設における情報発信を展開していく計画となっています。



取組みにより期待する効果

ステークホルダーの皆様にとって

- ・熊本県への往訪者、観光需要の増加
- ・空港周辺地域の混雑等の解消
- ・地域産業・経済・文化の活性化

当社にとって

- ・空港利用者の増加、利益向上

関連するSDGs





【取組方針】ステークホルダーの皆様と共に、自然環境の持続可能性に貢献します

気候変動による気温上昇や自然災害は、安全・安心な空港運営の重大な脅威です。また、熊本県内の豊かな森林や水資源は、地域社会にとっても当社にとっても重要な資源であり、持続可能性を追求する必要があります。当社は、カーボンニュートラルの実現と環境負荷の軽減にむけた取組みを推進し、自然環境の持続可能性の向上に貢献してまいります。

2050年カーボンニュートラルの実現

国土交通省が掲げる「空港脱炭素化推進に向けた計画策定ガイドライン」に則り、脱炭素化にむけた取組みを推進しております。

	2030年度	2050年度
CO2排出量削減目標	50%削減（2013年度比）	カーボンニュートラル達成

施策1 再生可能エネルギーの導入

2023年11月、九州電力株式会社および三井不動産株式会社とPPA契約（※）を締結し、駐車場にカーポート型太陽光パネルを設置しました。年間1,300MWhを新旅客ターミナルビルに供給すると同時に、当空港のCO2排出量を約10%削減する見込みです。

なお、PPAモデルでの太陽光発電設備の導入は、コンセッション空港では初の取組みになります。



※第三者が電力需要家の敷地に太陽光発電システムを設置し、発電した電力を需要家に供給する契約形態

施策2 空港施設からのCO2排出削減

日常業務におけるエネルギー消費量の削減策として、クールビズ・ウォームビズの推進や、業務改善（ペーパーレス化、テレワーク・オンライン会議の推進、ノー残業デーの設定等）を進めています。

また、ビルエネルギーマネジメントシステム（BEMS）を導入し、建物全体のエネルギー使用量の最適化にむけて管理しています。灯火施設・ビル施設へのLED照明や省エネ機器の段階的な導入、人感センサーによって不要な電気を消灯するなど、エネルギー消費量削減にむけた取組みも進めています。



省エネ削減効果
の見える化



自然採光



ピークカット



人感・照度センサー
LED 照明

施策3 空港車両からのCO2排出削減

2023年8月に施設部および運用部の業務用車両として、EV車を2台導入しました。今後も、段階的な導入にむけて検討を進める予定です。

環境への影響の軽減

施策1 廃棄物の削減

「第2次阿蘇くまもと空港環境計画」にて以下の目標を設定し、進捗管理を行っています。

	目標	進捗
一般廃棄物のリサイクル率	25%削減（2018年度比）	17%（2022年度）
一般廃棄物の空港全体及び旅客1人当たりの発生量	20%削減（2018年度比）	空港全体：27%（2022年度） 旅客1人当たり：18%（2022年度）

施策2 地域の自然資源の保全を意識した活用

「第2次阿蘇くまもと空港環境計画」にて、空港旅客1人あたりの上水使用量の目標を20ℓ/人以下と設定しており、2023年3月時点で12.4ℓ/人となっています。

また施設内の合板には小国杉（※）がふんだんに使用されていますが、これらは適正な森林管理によって産出された「SGEC認証材」です。その他、新旅客ターミナルビルの各所に、東京五輪の選手村で使用された熊本県産のレガシー材が再利用されていますので、お越しの際はぜひ見つけてみてください。

※熊本県小国町から産出される強度・材質に優れた木材



取組みにより期待する効果

ステークホルダーの皆様にとって

- ・地域の脱炭素化、環境負荷軽減への貢献

当社にとって

- ・気候変動等の環境負荷の緩和による空港運営の中長期的な安定化

関連するSDGs



阿蘇くまもと空港／熊本空港【公式】インスタグラムの投稿から②

出典: https://www.instagram.com/kumamoto_airport/

環境配慮



第29回熊本県木材利用優良施設コンクール 熊本県木材協会連合会賞を受賞しました

旅客ターミナルビルは、小国杉を含む県産材を82%使用。国産木材の有効活用は、森林資源の維持管理につながり、雇用創出機会にもなります。



新しい旅客ターミナルビルが、「第29回施設コンクール」(県など主催)で「熊本」を受賞しました。小国杉を含む県産材が評価されました。

2024年3月1日県庁での表彰式

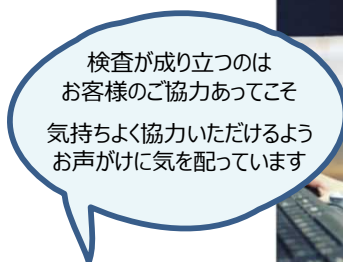
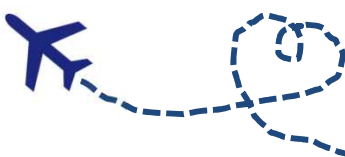
地域の自然資源を 利活用

働く人の活躍を積極的に発信

インスタで「空港のお仕事紹介」掲載中！

阿蘇くまもと空港を支える1000人以上のスタッフに直接インタビューして、仕事内容や業務に対する思いなど、ひとりひとりが活躍する姿を投稿しています。客室乗務員やパイロットだけでなく、保安検査員やテナント販売員、滑走路など土木にかかわる仕事に従事するスタッフから、仕事に対する思いを語ってもらい空港公式アカウントから発信することで、社員の意欲向上に繋がっています。

こうした発信をきっかけに、空港で働くことに興味を持ってもらえるよう、空港公式インスタでは、これからもさまざまなスタッフの活躍を紹介していきます。



出典: https://www.instagram.com/kumamoto_airport/



【取組方針】KKIAC VISIONの下、仲間を思いやり、多様な人材の創意を高める職場環境をめざします

持続可能な空港運営の原動力は人材であると考えています。当社は、多様なバックグラウンドを持つ役員・社員で構成されている点が特色です。当社の多様性を活かすためにも、一人一人が活躍できる環境の整備や、社員エンゲージメントの向上に向けた取組みを進めています。

多様な人材の活躍機会の創出

施策1 誰もが活躍できる環境の提供

◆バックグラウンドの多様性を活かすための取組み

当社は、新卒・中途社員に加え、複数の株主企業からの出向者も多く、社員のバックグラウンドの多様性が強みとなっています。個々のプロジェクトの推進においては、この多様性を活かしたチームを組成し、問題解決に取り組んでいます。

また、社員の創意を高める上では、社員同士のコミュニケーションを向上させることが重要と考えています。そのための環境整備の一環として、新社屋ではオフィスカフェテリアを採用しました。社内会議や休憩時間に社員の交流の場として活用されています。



カフェテリアの様子

◆女性活躍/ハンディキャップを持つ社員の環境整備

当社は性別や年齢等を問わず様々な社員が活躍できる環境の整備を進めています。従来から女性管理職の登用を進めており、現在では8名（全体の15.6%）に達しています。

また、バリアフリーの取組みとして、新社屋におけるだれでもトイレやエレベーターの設置、段差の解消等も行いました。

<当社社員構成>

	男性	女性
全社員	70人（63.1%）	41人（36.9%）
管理職（※）	45人（84.9%）	8人（15.6%）

（2024年3月末時点）

※管理職は課長補佐職以上を対象。

施策2 未来の人材の獲得

未来の人材を獲得するための取組みとして、インターンシップや県内外大学での就職説明会、幼稚園・保育園児童や小中学生を対象にした空港見学対応を継続的に実施しています。

県外からの採用者にも、手厚いバックアップを準備しております。



笑顔で働ける環境

施策

健康に働ける環境づくり

◆健康経営

社員が健康的に笑顔で働ける職場とするために、有給休暇の取得推進や、定期健康診断・ストレスチェック等による社員の健康状態のモニタリングを着実に実施しています。当社創業2019年度～2023年度において、健康診断受診率100%を達成しています。

当社は、熊本県のブライト企業認定（※）を取得しています。

また、トップ自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、共に働く社員の仕事や結婚、子育て、介護等、生活の充実を応援する「よかボス企業」としても登録されています。

※熊本県による働く人がいきいきと輝き安心して働き続けられる企業を認定する制度



◆子育て中の社員の働き方

子育て中の社員の働きやすさにも配慮し、パパ・ママの育休取得の推進や、時短勤務などの柔軟な働き方が可能な制度を採用しています。2023年度には、男女社員ともに育児休業取得率100%を達成しました。今後も子育て中の社員のキャリアやワークライフバランスの支援も検討して参ります。

◆労働安全衛生

安全衛生委員会を設置し職場環境の改善に取り組んでいます。例えば、産業医と社内を巡回し、危険箇所のアセスメント・改善や、空気環境の測定、労働時間管理等を実施しています。

取組みにより期待する効果

ステークホルダーの皆様にとって

- ・従業員のワークライフバランスの確保
- ・従業員の業務を通じた自己実現
- ・空港利用者へのサービス品質の向上

当社にとって

- ・サービス品質向上による顧客満足度の向上
- ・従業員定着率の向上

関連するSDGs





お問合せ先：
熊本国際空港株式会社
SDGs推進委員会事務局
(経営企画本部 総務・経理部内)
TEL：096-232-2311